

とちぎの農業農村整備事業における営農構想発表会を開催

【栃木県宇都宮市】

令和4年12月21日、栃木県は「とちぎの農業農村整備事業における営農構想発表会」を開催し、県内の土地改良区、市町など約170名（Web参加含む）が参加した。

地域農業の持続的な発展に向けて、関係者が担い手の育成・確保や作物生産などの将来像を話し合うことの重要性の啓発と、他地区への波及を目的として、優良事例の紹介とR5新規採択地区の営農構想の発表を行った。

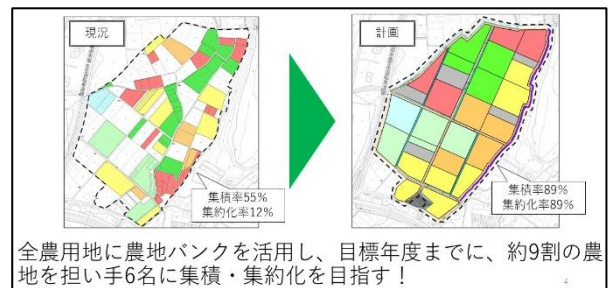
優良事例として、茂木町の（株）美土里農園が、中山間地域総合整備事業を契機に農地バンクを活用し区内すべての農地を借り受け、いちご、アスパラ等の作付けを中心に展開する収益性の高い農業経営を紹介した。事業推進のポイントとして、整備後にどんな農業をしていくのか最初から関係者で共通認識をもつことが大切とアドバイスがあった。

営農構想については、機構関連農地整備事業を活用し約9割の農地の集積・集約化を進めるあわのみや小山市の栗宮地区、スマート農業等による農作業の効率化を進め、さとも、さつまいも産地を目指すてらこうじ塩谷町の寺小路地区、JAの集出荷施設を活用して那須のねりぬき白美人ねぎの生産拡大に取り組む大田原市の練貫地区が発表を行った。どの地区も魅力ある地域にしたいという熱意をもって地域の特色や営農目標、その実現に向けた整備計画を掲げた。

これからの栃木県の農業農村整備事業は、地域で十分に話し合った将来ビジョンの実現を目的として推進していく。



会場の様子



栗宮地区営農ビジョン(抜粋)



寺小路地区営農ビジョン(抜粋)



練貫地区営農ビジョン(抜粋)

【栃木県農政部農地整備課】